

町田市公共事業景観形成指針
活用の手引き

発行年月：2025年3月

発行者：町田市都市づくり部地区街づくり課
〒194-8520

町田市森野2-2-22

電話 042-724-4267

刊行物番号：24-80

編集・印刷：株式会社 創建

町田市公共事業景観形成指針

活用の手引き

この「手引き」は、町田市公共事業において、大切な景観づくりの考え方を伝えたい、景観協議を行う上での疑問などを解決するために活用してほしいという思いで作成しています。

また、各施設の基本構想や基本計画を検討する所管課や、設計を行う工事の所管課をはじめ、市の業務を受注する事業者（PFI等含む）の方々に向けて作成しています。

町田の魅力を高めるのにはどういうことを大切にしたらいいの？

どんなことに気をつけて計画したらいいの？

なぜ景観協議が必要なの？

誰と何を協議するの？

どんなアドバイスがもらえるの？

どういう資料を用意すればいいの？

どの段階で協議するの？

周辺へはどんな配慮をすればいいの？



指針だけでは読み解けなかったこんな疑問を解決するために
この手引きを活用してみましょう

目次

Q & A 1

道路 3

駅前広場 5

公園 7

公共建築物 9

公共サイン 11



町田の魅力を高めるには、どういったことを大切にしたらいいの？

地域の資産となり、多くの人に愛着を持って利用され、市民の生活を豊かにする空間をつくるのが大切だと考えています。

計画を進める際は、隣り合う施設（公園と公共建築物、外周道路など）同士で、コンセプトや計画内容などについて、事前に調整しておくことが一体的な空間づくりのために大切です。



どんなことに気をつけて計画したらいいの？

多様な価値を提供できるよう、季節や時間帯、日常と非日常、将来的なニーズの変化などによって異なる使い方を想定することが大切です。

雨水浸透対策や生態系の維持など「それって景観なの？」と思うことについても、市民が快適に過ごす環境を作っていくうえで大切なことです。



なぜ景観協議が必要なの？

景観協議は、「魅力的な地域を創り出すための場」です。「指針」に記した内容を共有し、町田市の魅力を一層高めるための知恵やアイデアを共に出し合うために行います。

美しい風景を作るだけでなく、その場所の歴史や文化を引き継いで次代に継承できる空間を作ること、人々の多様な活動を支えて育む場所をつくること、まちのポテンシャルを引き出して魅力を一層高めていくことが、景観協議の目的です。



誰と何を協議するの？

景観協議では、景観アドバイザーである、建築、土木、造園、色彩、デザインなどの専門家（学識者など）と、これから取り組もうとする公共施設整備が、周囲の景観と調和し、多くの人に愛着を持って利用され、地域の資産となる魅力的なものになるための工夫について話し合います。各専門家は経験豊富な方々で、他都市の事例などを参考に、具体的なアイデアを提案してもらえるので、気軽に相談してください。



どの段階で協議するの？

「指針」では、公共施設整備を「構想段階」「計画・設計段階」「施工段階」「維持管理段階」の4つの段階に分けて、それぞれ配慮してほしい内容を掲載しています。このうち、主に「構想段階」と「計画・設計段階」で景観協議を行います。

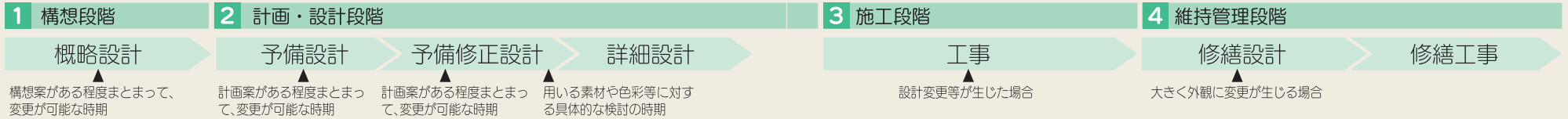


どんなアドバイスがもらえるの？

公共施設整備の種類や進捗状況に応じて、景観協議の中で多様な視点からアドバイスがもらえます。計画・設計の内容のほか、進め方や地元との合意形成、関係機関協議についてもアドバイスがもらえます。これまでも、もらったアドバイスを計画に取り込んで、魅力的な公共施設を整備しています。各施設の頁に、ひとことアドバイスを掲載しています。

- ▶ その場所の特性にあったものを、耐久性なども考慮しながら予算の範囲内で提案
- ▶ 周辺の植生や維持管理のしやすさ、季節による変化などを考慮し、樹種や配植などを提案
- ▶ 他都市の事例を参考に、地域特性に応じた手法や進め方を提案
- ▶ 仕上げの見た目だけでなく、計画・設計や発注方法、特記仕様書の作り方なども相談可能

景観協議のタイミング



留意事項

・事業概要（目的、コンセプト等）
・付近案内図
・現況写真（敷地、周辺）
・地形図
・事業スケジュール
・スタディ模型（あれば…）等

・位置図、道路規格等の基本情報
・平面図の案
・標準横断面図の案
・警視庁協議図（あれば…）
・パース（あれば…）等

・平面図の案
・断面図の案
・植栽計画の案
・舗装、照明、柵等の製品カタログやサンプル
・予算や工期の制約 等

アドバイザーのひとことアドバイス（その1）

必ずしも「景観協議＝グレードアップする」というわけではありません。イニシャルコストとランニングコストのバランスに配慮した、トータルな視点からアドバイスします。



※上記を参考に、準備できるものをご用意ください。

構想、計画・設計段階で大事にすること

※道路の種別や場所等によって、全ての項目があてはまるわけではありませんが、景観の視点からも大事にしていきたい考えです。参考にしてください。

1 構想段階

1 どんな役割や位置づけの道路かを考える

・果たすべき役割を、交通機能以外の多様な視点からも考えよう。
■多様な視点
賑わいや魅力の創出／地域イメージの向上／安全安心な暮らしの創出／自然環境への配慮 等

2 利活用のシーンをもとに考える

・どのような利活用のシーンが生まれると良いか、様々な情報をもとに考えよう。
■様々な情報
現地調査／地域の歴史や魅力の調査／ワークショップ／ヒアリング調査／関係者間での話し合い 等

3 対象地を含む周辺の状況を確認する

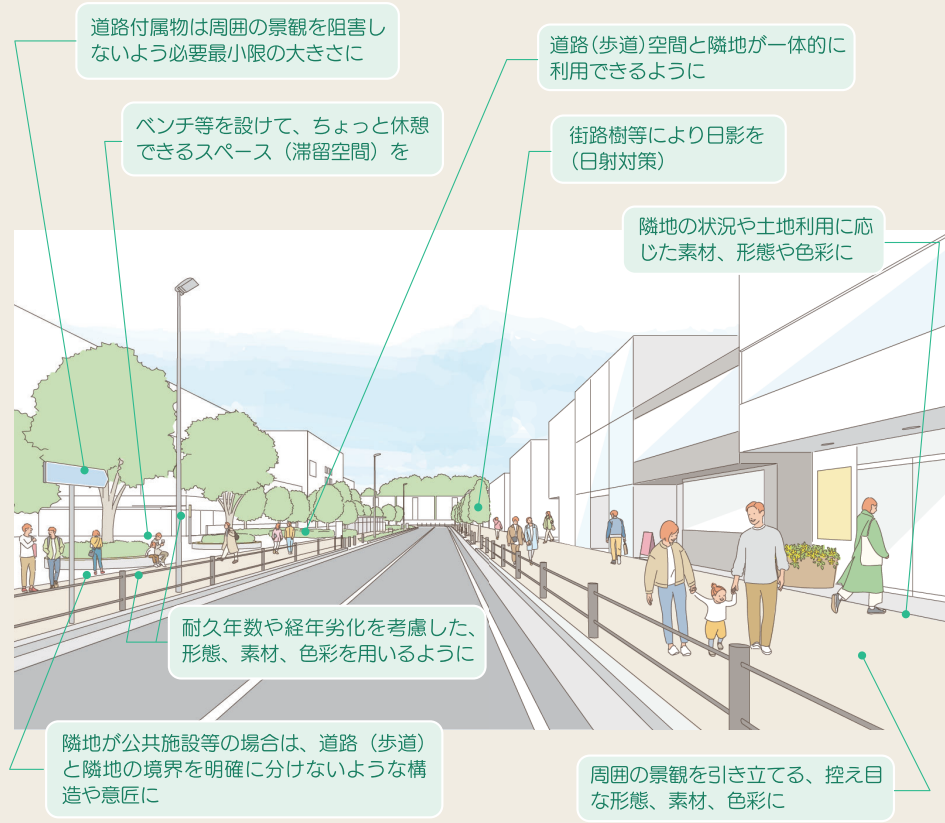
・対象地周辺の状況や沿道土地利用を確認し、計画検討の手がかりにしよう。
・道路と一体となって魅力を創出できる公共空間や民間施設、緑地がある場合は、積極的に関係性を構築しよう。
■周辺環境の把握
利用者特性の把握／地域資源の把握／沿道土地利用の調査／そこから見える風景 等

4 地域の歴史や魅力を調べる

・地域の歴史や魅力等の地域らしさを、計画検討の手がかりにしよう。
■地域らしさの把握
土地の履歴調査／地域資源調査／市史等文献調査／古い地図や写真の確認／オーラルヒストリー 等

5 整備の目標と方針をたてる

・目標と方針の立案には、1～4の作業をまとめ、行政、設計者、市民等が、地域が抱える課題の解決を意識しながら話し合うことが大切だ。
・目標と方針に沿って計画・設計、施工が行われるよう、分かりやすい資料（報告書等）にまとめよう。



2 計画・設計段階

1 構想時の目標と方針を再確認する

・構想時に立案した目標と方針を行政・設計者と共有しよう。
・目標と方針は、市民への説明も意識し、平易な言葉で表現しよう。

2 目標と方針をもとに、計画・設計する

・目標と方針をもとに、具体的なシーンをイメージしながら進めよう。
・設計範囲内だけで考えず、周辺とのつながりや隣地との関係づくりを考慮し、周辺への波及効果を高める計画・設計を心がけよう。

3 トータルデザインを意識して設計する

・舗装や柵等の要素ごとに設計を進めず、目指す景観イメージを意識したトータルデザインで設計しよう。
・ライフサイクルコストや維持管理に配慮して検討しよう。

検討時の工夫

発注制度を工夫する

▶地元との協議が必要など重要度の高い事業については、「提案をもとに案を選定する」コンペ方式や「実績や提案をもとに設計者を選定する」プロポーザル方式の採用を検討することが有効です。競争入札と異なり、事前に提案や考え方を知らることができるだけでなく、資料やプレゼンのわかりやすさも判断することができる大きな利点です。

模型やスケッチを用いて検討する

▶図面をもとに頭の中で立体化するのには限界があります。このため、検討にあたってはスタディ模型やパースを用いることが有効です。
▶模型やパースは計画・設計がまとまってから作成するのではなく、検討過程で作成するものです。整備費用から見ればわずかな費用で実施できるため、あらかじめ発注仕様に記載しておくことが有効です。

景観協議のタイミング

1 構想段階

概略設計

構想案がある程度まとまって、変更が可能な時期

2 計画・設計段階

予備設計

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

予備修正設計

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

詳細設計

用いる素材や色彩等に対する具体的な検討の時期

3 施工段階

工事

設計変更等が生じた場合

4 維持管理段階

修繕設計

大きく外観に変更が生じる場合

修繕工事

用意するもの

- ・事業概要（目的、コンセプト等）
- ・付近案内図
- ・現況写真（敷地、周辺）
- ・地形図
- ・事業スケジュール
- ・スタディ模型（あれば…）等

- ・位置図、道路規格等の基本情報
- ・平面図の案
- ・標準横断面図の案
- ・警視庁協議図（あれば…）
- ・パース（あれば…）等

- ・平面図の案
- ・断面図の案
- ・植栽計画の案
- ・舗装、照明、柵等の製品カタログやサンプル
- ・予算や工期の制約など

アドバイザーのひとことアドバイス（その2）

相談時に計画案が無くても構いませんが、どのような思いで取り組んでいるのか、どんなことを実現したいと思っているのかを伝えてもらえると効果的な協議につながります。



※上記を参考に、準備できるものをご用意ください。

構想、計画・設計段階で大事にすること

※事業の規模や場所等によって、全ての項目があてはまるわけではありませんが、景観の視点からも大事にしていきたい考えです。参考にしてください。

1 構想段階

1 どんな役割や位置づけの駅前広場かを考える

・果たすべき役割を、交通機能を満足するロータリー以外の多様な視点からも考えよう。（警察協議の前にアドバイザーと協議しよう）

■多様な視点

まちの玄関／賑わいや魅力の創出／滞留空間の提供／雨水貯留浸透機能／地域イメージの向上等

2 利活用シーンをもとに考える

・どのような利活用のシーンが生まれると良いか、様々な情報をもとに考えよう。

■様々な情報

現地調査／地域の歴史や魅力の調査／ワークショップ／ヒアリング調査／関係者間での話し合い等

3 対象地を含む周辺の状況を確認する

・対象地周辺の状況や沿道土地利用を確認し、計画検討の手がかりにしよう。

・駅前広場と一体となって魅力を創出できる公共空間や民間施設がある場合は、歩行者空間と積極的に関係性を構築しよう。

■周辺環境の把握

利用者特性の把握／沿道土地利用の調査／利用者の動線／歩行速度・時間帯等

4 地域の歴史や魅力を調べる

・地域の歴史や魅力等の地域らしさを、計画検討の手がかりにしよう。

■地域らしさの把握

土地の履歴調査／地域資源調査／市史等文獻調査／古い地図や写真の確認／オーラルヒストリー等

5 整備の目標と方針をたてる

・目標と方針の立案には、1～4の作業をまとめ、行政、設計者、市民等が、地域が抱える課題の解決を意識しながら話し合うことが大切だ。

・目標と方針に沿って計画・設計、施工が行われるよう、分かりやすい資料（報告書等）にまとめよう。

駅前広場全体が大きな緑を囲う広場に見えるように木々を配植

座れる場所を設けて、ゆとりのある空間に

歩道に曲線を取り入れて、柔らかな空間に

樹種の選定の際には季節感等にも配慮を

隣接する商業ビル等と一体的な空間づくりに

駅から降りたときの見え方を大切に

ベンチなど人々が滞留し、賑わいを生み出す場所に

地域の景観を牽引するシンボル性の高い樹木に

近隣の公園と緑でつなぐデザインに

2 計画・設計段階

1 構想時の目標と方針を再確認する

- ・構想時に立案した目標と方針を行政・設計者と共有しよう。
- ・目標と方針は、市民への説明も意識し、平易な言葉で表現しよう。

2 目標と方針をもとに、計画・設計する

- ・目標と方針をもとに、具体的なシーンをイメージしながら進めよう。
- ・設計範囲内だけで考えず、周辺とのつながりや隣地との関係づくりを考慮し、周辺への波及効果を高める計画・設計を心がけよう。

3 トータルデザインを意識して設計する

- ・舗装や柵等の要素ごとに設計を進めず、目指す景観イメージを意識したトータルデザインで設計しよう。
- ・ライフサイクルコストや維持管理に配慮して検討しよう。

検討時の工夫

発注制度を工夫する

▶地元との協議が必要など重要度の高い事業については、「提案をもとに案を選定する」コンペ方式や「実績や提案をもとに設計者を選定する」プロポーザル方式の採用を検討することが有効です。競争入札と異なり、事前に提案や考え方を知らることができるだけでなく、資料やプレゼンのわかりやすさも判断することができる大きな利点です。

模型やスケッチを用いて検討する

▶図面をもとに頭の中で立体化するのには限界があります。このため、検討にあたってはスタディ模型やパースを用いることが有効です。

▶模型やパースは計画・設計がまとまってから作成するのではなく、検討過程で作成するものです。整備費用から見ればわずかな費用で実施できるため、あらかじめ発注仕様に記載しておくことが有効です。

景観協議のタイミング

1 構想段階

基本構想

構想案がある程度まとまって、変更が可能な時期

2 計画・設計段階

基本計画

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

基本設計

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

実施設計

用いる素材や色彩等に対する具体的な検討の時期

3 施工段階

工事

設計変更等が生じた場合

4 維持管理段階

修繕設計

大きく外観に変更が生じる場合

修繕工事

用意されるもの

・事業概要（目的、コンセプト等）
・付近案内図
・現況写真（敷地、周辺）
・地形図
・事業スケジュール
・スタディ模型（あれば…）等

・位置図、範囲等の基本情報
・ゾーニング図（あれば…）
・パース（あれば…）

・平面図の案
・造成計画図の案
・植栽計画図の案
・施設計画図の案
・主要断面図の案

・平面図の案
・立面図の案
・植栽計画図の案
・舗装、照明、柵等の製品カタログやサンプル
・予算や工期の制約 等

アドバイザーのひとことアドバイス（その3）

計画や整備の方向性などに悩んでいるとき、アドバイザーをセカンドオピニオンとして活用いただくこともできます。



※上記を参考に、準備できるものをご用意ください。

構想、計画・設計段階で大事にすること

※施設の規模、各事業の背景や事情によって、全ての項目があてはまるわけではありませんが、景観の視点からも大事にしていきたい考えです。参考にしてください。

1 構想段階

1 どんな役割や位置づけの公園かを考える

・果たすべき役割を、市民想いの場以外の多様な視点からも考えよう。
■多様な視点
地域コミュニティの形成／子育てや環境教育の場／生態系の維持／雨水貯留浸透機能／歴史継承／地域イメージ向上 等

2 利活用のシーンをもとに考える

・どのような利活用のシーンが生まれると良いか、様々な情報をもとに考えよう。
■様々な情報
現地調査／地域の歴史や魅力の調査／ワークショップ／ヒアリング調査／関係者間での話し合い 等

3 対象地を含む周辺の状況を確認する

・対象地周辺の状況や沿道土地利用を確認し、計画検討の手がかりにしよう。
・公園と一体となって魅力を創出できる公共空間や民間施設、緑地がある場合は、積極的に関係性を構築しよう。
■周辺環境の把握
利用者特性の把握／地域資源の把握／周辺土地利用の調査／そこから見える風景 等

4 地域の歴史や魅力を調べる

・地域の歴史や魅力等の地域らしさを、計画検討の手がかりにしよう。
■地域らしさの把握
土地の履歴調査／地域資源調査／市史等文献調査／古い地図や写真の確認／オーラルヒストリー 等

5 整備の目標と方針をたてる

・目標と方針の立案には、1～4の作業をまとめ、行政、設計者、市民等が、地域が抱える課題の解決を意識しながら話し合うことが大切だ。
・目標と方針に沿って計画・設計、施工が行われるよう、分かりやすい資料（報告書等）にまとめよう。



2 計画・設計段階

1 構想時の目標と方針を再確認する

・構想時に立案した目標と方針を行政・設計者と共有しよう。
・目標と方針は、市民への説明も意識し、平易な言葉で表現しよう。

2 目標と方針をもとに、計画・設計する

・目標と方針をもとに、具体的なシーンをイメージしながら進めよう。
・設計範囲内だけで考えず、周辺とのつながりや隣地との関係づくりを考慮し、周辺への波及効果を高める計画・設計を心がけよう。

3 トータルデザインを意識して設計する

・舗装や柵等の要素ごとに設計を進めず、目指す景観イメージを意識したトータルデザインで設計しよう。
・ライフサイクルコストや維持管理に配慮して検討しよう。

検討時の工夫

発注制度を工夫する

▶地元との協議が必要など重要度の高い事業については、「提案をもとに案を選定する」コンペ方式や「実績や提案をもとに設計者を選定する」プロポーザル方式の採用を検討することが有効です。競争入札と異なり、事前に提案や考え方を知らることができるだけでなく、資料やプレゼンのわかりやすさも判断することができる大きな利点です。

模型やスケッチを用いて検討する

▶図面をもとに頭の中で立体化するのには限界があります。このため、検討にあたってはスタディ模型やパースを用いることが有効です。
▶模型やパースは計画・設計がまとまってから作成するのではなく、検討過程で作成するものです。整備費用から見ればわずかな費用で実施できるため、あらかじめ発注仕様に記載しておくことが有効です。

景観協議のタイミング

1 構想段階

基本構想

構想案がある程度まとまって、変更が可能な時期

- ・事業概要（目的、コンセプト等）
- ・付近案内
- ・現況写真（敷地、周辺）
- ・地形図
- ・事業スケジュール等

2 計画・設計段階

基本計画

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

- ・位置図、範囲等の基本情報
- ・ゾーニング図等

基本設計

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

- ・配置図の案
- ・平面図の案
- ・立面図の案（あれば…）
- ・パース（あれば…）
- ・スタディ模型（あれば…）等

実施設計

用いる素材や色彩等に対する具体的な検討の時期

- ・配置図の案
- ・平面図の案
- ・植栽計画図の案
- ・外壁、屋根、舗装、照明、柵等の製品カタログやサンプル
- ・予算や工期の制約等

3 施工段階

工事

設計変更等が生じた場合、

4 維持管理段階

修繕設計

大きく外観に変更が生じる場合

修繕工事

アドバイザーのひとことアドバイス（その4）

住民説明や関係機関協議の進め方についても相談に応じます。また、場合によってはアドバイザーが説明会や会議に同席することも可能です。



※上記を参考に、準備できるものをご用意ください。

構想、計画・設計段階で大事にすること

※施設の規模、各事業の背景や事情によって、全ての項目があてはまるわけではありませんが、景観の視点からも大事にしていきたい考えです。参考にしてください。

1 構想段階

1 どんな役割や位置づけの公共建築物かを考える

- ・果たすべき役割を、施設の用途以外の多様な視点からも考えよう。
- 多様な視点
地域コミュニティの形成／子育てや環境教育の場／生態系の維持／雨水貯留浸透機能／歴史継承／地域イメージの向上等

2 利活用のシーンをもとに考える

- ・どのような利活用のシーンが生まれると良いか、様々な情報をもとに考えよう。
- 様々な情報
現地調査／地域の歴史や魅力の調査／ワークショップ／ヒアリング調査／関係者間での話し合い等

3 対象地を含む周辺の状況を確認する

- ・対象地周辺の状況や土地利用を確認し、計画検討の手がかりにしよう。
- ・周辺に連携して魅力を創出できる公共空間や民間施設、緑地がある場合は、積極的に関係性を構築しよう。
- 周辺環境の把握
利用者特性の把握／地域資源の把握／周辺土地利用の調査／そこから見える風景等

4 地域の歴史や魅力を調べる

- ・地域の歴史や魅力等の地域らしさを、計画検討の手がかりにしよう。
- 地域らしさの把握
土地の履歴調査／地域資源調査／市史等文獻調査／古い地図や写真の確認／オーラルヒストリー等

5 整備の目標と方針をたてる

- ・目標と方針の立案には、1～4の作業をまとめ、行政、設計者、市民等が、地域が抱える課題の解決を意識しながら話し合うことが大切だ。
- ・目標と方針に沿って計画・設計、施工が行われるよう、分かりやすい資料（報告書等）にまとめよう。



2 計画・設計段階

1 構想時の目標と方針を再確認する

- ・構想時に立案した目標と方針を行政・設計者と共有しよう。
- ・目標と方針は、市民への説明も意識し、平易な言葉で表現しよう。

2 目標と方針をもとに、計画・設計する

- ・目標と方針をもとに、具体的なシーンをイメージしながら進めよう。
- ・設計範囲内だけで考えず、周辺とのつながりや隣地との関係づくりを考慮し、周辺への波及効果を高める計画・設計を心がけよう。

3 トータルデザインを意識して設計する

- ・建築物の意匠や植栽計画等の要素ごとに設計を進めず、目指す景観イメージを意識したトータルデザインで設計しよう。
- ・ライフサイクルコストや維持管理に配慮して検討しよう。

検討時の工夫

発注制度を工夫する

- ▶地元との協議が必要など重要度の高い事業については、「提案をもとに案を選定する」コンペ方式や「実績や提案をもとに設計者を選定する」プロポーザル方式の採用を検討することが有効です。競争入札と異なり、事前に提案や考え方を知らることができるだけでなく、資料やプレゼンのわかりやすさも判断することができる大きな利点です。

模型やスケッチを用いて検討する

- ▶図面をもとに頭の中で立体化するのには限界があります。このため、検討にあたってはスタディ模型やパースを用いることが有効です。
- ▶模型やパースは計画・設計がまとまってから作成するのではなく、検討過程で作成するものです。整備費用から見ればわずかな費用で実施できるため、あらかじめ発注仕様に記載しておくことが有効です。

景観協議のタイミング

1 構想段階

設置場所・大きさ等の検討

構想案がある程度まとまって、変更が可能な時期

2 計画・設計段階

表示内容の検討

計画案がある程度まとまって、変更が可能な時期

デザイン検討

用いる素材や色彩等に対する具体的な検討の時期

3 施工段階

工事

設計変更等が生じた場合

4 維持管理段階

修繕設計

大きく外観に変更が生じる場合

修繕工事

用意
の
もの

- ・事業概要（目的、コンセプト等）
- ・付近案内図
- ・現況写真（敷地、周辺）
- ・地形図
- ・事業スケジュール等

- ・位置図、範囲等の基本情報
- ・配置図の案
- ・デザイン案等

- ・立面図の案
- ・デザイン図の案等

※上記を参考に、準備できるものをご用意ください。

アドバイザーのひとことアドバイス（その5）

相談したら、全部反映しなければいけないわけではありません。納得したときに意見を採用してくればOKです。



構想、計画・設計段階で大事にすること

※設置場所や、各事業の背景や事情によって、全ての項目があてはまるわけではありませんが、景観の視点からも大事にしていきたい考えです。参考にしてください。

1 構想段階

1 どんな役割や位置づけの公共サインかを考える

- ・誰に向けた、どのような情報を発信すべきかを、多様な視点から考えよう。
- 多様な視点
対象施設等の来訪者像／既設のサイン／既設の情報の情報／地域の魅力向上等

2 利活用のシーンをもとに考える

- ・どのような利活用のシーンが生まれると良いか、様々な情報をもとに考えよう。
- 様々な情報
現地（施設・地域）調査／ワークショップ／ヒアリング調査／既設の情報との連携／関係者間での話し合い等

3 対象地を含む周辺の状況を確認する

- ・対象地周辺の状況や土地利用を確認し、計画検討の手がかりにしよう。
- ・周辺に調和や配慮すべき公共空間や民間施設がある場合は、積極的に関係性を構築しよう。
- 周辺環境の把握
利用者特性の把握／周辺土地利用の調査／利用者の動線／歩行速度・時間帯等

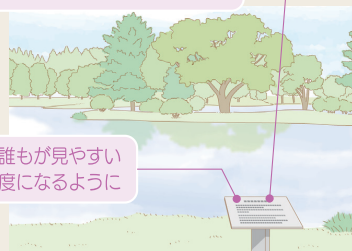
4 地域の歴史や魅力を調べる

- ・地域の歴史や魅力等の地域らしさを、計画検討の手がかりにしよう。
- 地域らしさの把握
土地の履歴調査／地域資源調査／オーラルヒストリー等

5 設置の目標と方針をたてる

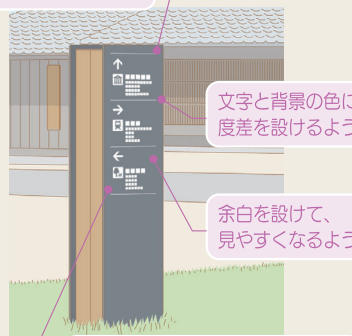
- ・目標と方針の立案には、1～4の作業をまとめ、地域が抱える課題の解決を意識しよう。

可能な限り小さく控え目にして、解説の対象（風景、建物等の資源）への視界を遮らないように



利用者の誰もが見やすい高さや角度になるように

周囲の景観に調和した素材や色彩を用いるように

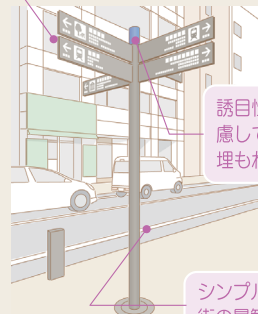


文字と背景の色に明度差を設けるように

余白を設けて、見やすくなるように

新ゴシック体やUDフォント等の読みやすい字体を用いるように

情報を集約して、まちなかにサインが溢れないように



誘目性（目立ちやすさ）に配慮して、サインがまちなかに埋もれないように

シンプルな形状と色彩を用い、街の景観を引き立てるように

2 計画・設計段階

1 構想時の目標と方針を再確認する

- ・構想時に立案した目標と方針を行政・設計者と共有しよう。

2 目標と方針をもとに、計画・設計する

- ・目標と方針をもとに、具体的なシーンをイメージしながら進めよう。
- ・設計範囲内だけで考えず、周辺とのつながりや隣地との関係づくりを考慮し、周辺への波及効果を高める計画・設計を心がけよう。

3 トータルデザインを意識して設計する

- ・サイン本体と表示内容のバランスを考慮し、目指す景観イメージを意識したトータルデザインで設計しよう。
- ・維持管理に配慮して検討しよう。

検討時の工夫

原寸大で検討する

- ▶図面をもとに頭の中で立体化するのは限界がありあす。このため、検討にあたっては、検討案を原寸大で出力し、大きさを体感することが有効です。
- ▶原寸大の印刷紙や模型を現地に置いて、大きさや色彩等を周囲とのバランスの中で確認してから製作することも効果的です。特に、ワークショップ等、大勢で検討する際には有効です。

複数箇所に設置する場合は工夫する

複数の公共サインを設置する場合

- ▶デザインに規則性を持たせる。（フォーマットを決めて、ロゴやタイトル、画像等の位置をそろえる）
- ▶できるだけ1枚にまとめるなど、集約化を図る。

エリアで一體的に公共サインを設置する場合

- ▶全体のデザインや素材、色を統一（規格化）する。

見やすく、読みやすく工夫する

- ▶読みやすい字体を選定する。
 - ・シンプルでやや細めの文字
 - ・縁取りや影付きの文字は控える
 - ・UDフォント等
- ▶子どもや外国人にも伝わりやすいピクトグラムを活用する。
- ▶色数を抑える。
- ▶文字と背景の色に明度差（濃淡の対比）を設ける。
- ▶禁止や危険等の注意を表す赤色や黄色は、使い方に注意する。
- ▶情報に重複がないよう気を付ける。
- ▶イラストを多用せず、シンプルを心がける。
- ▶余白を設ける。（外周や、文字と図の余白の幅をそろえる等）